



2020年3月議会が、2月20日から3月23日まで開かれたので、主なことを報告します。

百条委員会の中間報告される！ (公金支出及び公文書改ざん等調査特別委員会)

令和元年12月定例会で百条委員会が設置され、委員会開催準備の打ち合わせを9回、委員会を7回開催。

●令和元年12月18日第1回目は、正・副委員長を決める。委員長（下山議員）副委員長（岡崎議員）

●令和2年1月15日第2回目は、進め方、申し合わせ事項作成、検察庁の保管記録を請求することを決定。同日第3回目は、執行部への資料要求。

●2月4日第4回目は、塩見総務部長、中永会計課長（前監査事務局長）を次回に参考人として出席を求めること、内田前教育長を3月10日に参考人として出席を求めることを決定。

●2月17日第5回目、塩見氏には、令和元年8月29日の「教育委員会における臨時職員の任用等に関する調査報告書」について質問。中永氏には、令和元年8月28日の「議会からの監査請求の結果報告について」質問。

●3月10日第6回目、内田前教育長に、令和元年8月29日付の調査書について質問。3月25日には、安本税務課参事（前教育総務課長）、久山学校教育参事（前学校給食センター長）、森川学校給食センター主査の委員会出席を求め、証人尋問を行うことを決定。執行部に資料要請も行いました。

●3月19日第7回目は、中間報告の内容の協議。

今後も引き続き調査を進め、本事案の真相を明らかにするとともに、再発防止策の検討を行っていきます。

* 3月25日第8回目（通算）は、3人に証人尋問。次回は4月8日10時からです。

やっと火葬料金補助事業が予算化される！（600万円）

* 吉井地域は、柵原吉井英田火葬場施設組合で、火葬1体2万円です。（これまで通り）

* 熊山地域は 和気北部衛生施設組合で、火葬1体1万2,000円。これまで通りで値上げはしない。

* 山陽・赤坂地域は、岡山市での火葬が3万5,000円～4万5,000円かかっているの、1体2万円できるように補助。

目的は、市民の負担する火葬場利用料金について、その標準化を図るため補助金を交付する。要綱は現在検討中です。

2020年度一般会計当初予算の特徴



●防災力の向上へ大型ハード整備事業として

* 山陽ふれあい公園総合体育館改修費 6億4,880万円

災害時の防災拠点としての機能拡充を図るため、山陽ふれあい公園内の改修を行い、管内空調をアリーナまで広げる。

- ・ 屋根に太陽光発電設備を新設
- ・ 停電時でも稼働する空調整備をメインアリーナに導入
- ・ 防災拠点としての機能を高める

●まちづくり関連事業では

* バスターミナルなどを備えた新たな交流拠点を山陽自動車道山陽インターチェンジ付近に整備するための道路改良費 8,000万円

河本・岩田地区の開発に向け、実施見通しを確実にするために市道岩田長尾線の整備を最優先で進めるとともに、都市計画の策定に着手し、地域に雇用と賑わいを創出する新しい都市拠点を形成する土台作りを行う。(市長の施策方針から)

* 山陽団地内にある老朽化した県営住宅の跡地開発に伴う住宅解体費 2,745万円

県から購入することとなった山陽団地の一部の用地を活用して、高齢化と人口流出に歯止めをかけ、世代循環を促す新しいまちの魅力の創出に向けた取り組みを進める。(市長の施策方針から)

●他の新規事業として

* ブレーキとアクセルの踏み間違いによる急発進を防ぐ後付け可能な装置の購入費 100万円

高齢運転者の交通事故防止及び事故時の被害軽減を目的として、高齢者踏み間違い急発進抑制装置の整備に要する経費の一部を補助する。(対象:65歳以上)

* 高齢者特殊詐欺等被害防止対策補助事業 25万円

高齢者の特殊詐欺等の被害を未然に防止することを目的として、被害防止機能のある固定電話機または固定電話機に接続して使用する機器の購入に要する経費の一部を補助する。(対象:65歳以上のみの世帯)

* 未来が見える学校プロジェクト事業 1,030万円

学校組織改革、地域・外部機関との連携、ICT整備に関する取り組みを行い、様々な個性、価値観、家庭環境に合わせた多様で主体的な学びを保障する学校づくりを目指す。

具体的には、学校運営の課題分析と解決を担うスクールコーディネーターの配置。公立中学校の1校に常駐。教員の業務を効率化させる組織改革のモデルケースを構築する。



① 公立・公的病院の再編、統廃合の名称公表は関係者の努力を踏みにじるもの

問 厚労省が再編、統合問題で、公立・公的病院の名称を昨年 9 月に公表。住民に不安を与えたことへの反発や公表の判断基準に対する疑問の声が目立っている。

この中に赤磐医師会病院も入っている。これまで、赤磐市民病院の 50 床のベッドは医師会病院へ移されている。

医師会病院は、僻地医療に医師派遣をいただいている。名称の公表は、関係者の努力を踏みにじるものだ。公立、公的病院の再編、統合はストップをさせなければならない。

住民の命の格差を拡大するようなやり方は許せないという厳しい意見を国に上げていただきたい。

市長答弁 厚労省の突然の公表は、市民から多くの疑問の声を聞いている。実際には自治体間の格差があり、その議論が反映されていないことに大いに不満を持っている。今後、地域の実情を強く訴えていく。

② 教員の 1 年単位の变形労働時間制を導入しないように

問 この制度は、長時間労働を解決するどころか、長時間労働を固定化、また助長する。現場の声を聞き、岡山県にこの制度の導入をするべきでないと声を届けていただきたい。

市長答弁 近隣市町との協議を進めながら、教育現場の勤務状況を十分把握した上で慎重に対応していく。

③ 高校生の通学費補助の拡大をすべき

問 高校生の通学費補助の実態と対象地域の拡大をすべきではないか。山陽地域でも、岡山市への通学で、5 人の保護者から聞き取りをすると、安くて月額 5,000 円、高い方で 1 万 9,900 円かかっている。経済的負担は大変である。

市長・教育次長答弁 平成 30 年度の実績は支給者 113 人（対象者の 51%）。令和元年前期は 43 人。後期は 3 月にわかる。今後、保護者のニーズや通学状況等の実態を把握しつつ制度の内容について検討していく。

④ 学校給食の民間委託は中止を

問 公文書改ざん問題は学校給食配送業務に関係がある。給食の一部民営化を強行に進めながら、一方で、前次長が逮捕されるような事件や前教育長の辞任などあった中で進めることは納得いかない。いったん中止して検討すべきだ。

市長、教育次長答弁 行財政改革や職員の定数管理計画を着実に進めてきた結果である。令和 2 年度導入を行っていく。

「424の病院リストと『具体的対応方針』の再検証要請の撤回を求める」請願



採決で8対8になり、議長判断で不採択に！

請願者 (岡山県社会保障推進協議会 会長 三上雅弘)

紹介議員 (福木京子)

【請願趣旨】 厚生労働省は2019年9月26日、公立・公的病院が策定した「具体的対応方針」について、その再検証を要請する424の病院名を公表しました。

県内では13の病院名が公表されました。…これらの病院に対して国は、病院の統合や再編、ダウンサイジングの方向で再検証を行うことを求めています。・・・

424の病院のうち4分の3は200床未満の中小病院です。100床未満の病院はその8割余りが再検証を要請されました。

採算との関係で民間病院が進出できない地域に立地する地方の公立・公的病院は、住民のいのちと健康の砦としてなくてはならない存在です。

これらそれぞれの地域で固有の事情を勘案することなしに、地域が合意のうえに策定した「具体的対応方針」を画一的な基準でもって覆いかくすにいたるは、地方自治への介入と言わなければなりません。

名前が公表された病院が所在する地域では、「病院がなくなるのか」といった住民の不安の声が聞かれます。また、病院への入職内定辞退など、風評被害ともいえるべき事態が発生しています。

以上の趣旨から、下記事項について、地方自治法99条にもとづき、国に対する意見書を採択していただけるよう陳情いたします。

【請願項目】 424の病院リストと「具体的対応方針」の再検証要請の撤回を求める意見書を国に提出すること。

厚生常任委員会は3対2で採択すべきとなっていました。福木議員は、請願趣旨を説明し、赤磐市では、これまで赤磐市民病院のベッド50床が医師会病院へ移されていること、地域医療の役割をもって是里などへ医師派遣を行ってくれていること、さらに、現在のコロナウイルス感染症対策で、病床数が足りない状況で、公立・公的病院の重要性がここで問われていることなど訴え、賛成していただくよう討論を行いました。賛成8人、反対8人で、議長判断で不採択になりました。(大森議員は欠席)

賛成議員 (永徳、佐々木、保田、原田、行本、福木、岡崎、下山) 敬称略* 議席順
反対議員 (佐藤武、光成、大口、治徳、松田、北川、佐藤武文、実盛)